特定非営利活動法人 太平洋戦史館

戦史館だより

２０２４年９月05日発行
戦史館事務局〒029-4427
岩手県奥州市衣川陣場下
４１番地𪜈オフィス花岡
編集発行人　花岡千賀子

会長理事　岩渕　宣輝　　事務局長　花岡千賀子　　☎0197-52-3000 FAX 0197-52-4575

戦史館会員の皆様、この夏を無事に過ごせたでしょうか？「地球が沸騰している」と言われた昨年以上に“地球が蒸発しそう”な酷暑、追い打ちをかける豪雨や台風が続く日々秋になっても１日１日を、どうか無理せず気をゆるめずに過ごしましょう。

戦史館は８月から新年度。戦史館だより130号～132号の記事が総会議案書に相当します。

同封のはがきで　総会に参加お願いします。

（９月30日までの投函にご協力を！10月以降は切手22円分の追加が必要です。）

前年度ようやく、パプア州と西パプア州へ　遺骨帰還の調査派遣が再開されました。戦史館からは各回３名の会員が派遣団に参加。2023年11月ビアク島へ。2024年マノクワリヤカチ方面へ。５月は再びビアク派遣。８月はジャヤプラ方面へと派遣が続きました。

6月22日　各派遣団の参加者から話を聞く報告会を秋葉原で開催し26名が集まりました。

11月のビアク派遣では2015年に現地に取り残されたままの遺骨がようやく帰還できると期待されたのですが、驚くべき結果になったことを戦史館だより130号でお伝えしました。仮安置していた約80体の遺骸と遺留品は紛失か盗難か不明。プラケースに入った遺骸は固体がバラバラにされていて現地の人の骨が混入…納得できないことばかりでしたが、報告会では小澤さんからありありと現場作業の様子を聞くことができました。現地作業の話で参加者がびっくりしたのは、プラケースに入った骨を運ぶ作業の始まりと終わりに、推進協会の団員が毎回「英霊に拝礼」と号令をかけたという場面でした。英霊ということばに会場では「えっ？　強制参拝？　憲法違反？」と奇異に感じて聞き返す会員、違和感のある表情の会員も。派遣中のその場面では異を唱えにくいことがあっても、否応なく指示に従わざるを得ない場面だったのでしょうね。戦史館から厚労省と推進協会に、この件も含む５項目の質問を出しています。「英霊に拝礼」を指示した推進協会職員からは、８月末に退職するという挨拶メールで「拝礼の件で十分な配慮を欠く対応に深く反省しております」という謝罪文が届きました。

5月ビアク派遣「遺骸の撮影は不可！　鑑定人が撮影する！」

「遺骸に汗一滴でも落としてはダメ！」と突然の命令です。戦史館からは戦跡カメラマンの安島さんが参加し、任務分担も撮影係を担当しています。ＤＮＡ鑑定のためならば現地の遺骸発見者はじめ全ての人のＤＮＡが混入しないよう触れないように働きかけが必要で、団員の事前学習資料にも加えてほしいものです。遺骸の写真撮影について厚労省はこれまで「ご遺骨の写真撮影は戦没者の尊厳とご遺族の心情に配慮して撮影不可」としていました。戦場に放置されている遺骸の

《報告書》

令和６年度
インドネシア現地調査・遺骨収集派遣（第１次）

令和６年５月１９日（日）～６月１日（土）

派遣先：パプア州ビアク島

派遣団：松本文彦 団長、井上達昭、荒木幸治（日本戦没者遺骨収集推進協会）
秀平良子、藤森龍（日本遺族会）
安島高良、村山行雄、小野寺正喜（太平洋戦史館）

写真担当団員：安島 太佳由

写真が、ネットで拡散されて厚労省がやり玉に上げられたことがきっかけのようです。

一方、戦史館が未送還情報収集事業を担当していた頃は遺骸写真と遺留品は共に“状況証拠”として最重要でした。2023年11月の派遣で小澤さんが撮影した遺留品全部の写真と発見現場で撮影した遺留品の写真を見比べると、あったはずの遺留品が無くなっている…結果として盗難を疑う有力な“状況証拠”と言えるでしょう。

遺骸の記録写真の意味とは？　写真を観る人にとって“ここから救い出してあげたい”という気持ちに訴えかけるもの…と戦史館は考えます。その写真が一般の人の理解に繋がってほしい。厚労省もその下請けの推進協会も、恥を隠そうとせずに取り組んでほしい。

安島さんの写真報告集はこの紙面では表紙ページのみ紹介していますが全体は11ページの構成ですが、写真集の後半に遺骸の写真はありません。現在は戦史館で展示中。

5月にビアクで9柱の日本兵遺骸が発見されるも　ＤＮＡ鑑定までは長～い道のり？

ビアクでは住民の協力で新たな場所の捜索が行われ、日本から同行した専門家の鑑定で９体が日本兵の可能性が高いと判定されました。次はＤＮＡ鑑定のためにジャカルタの研究所(BRIN)へ検体が移送されます。検体は団員と一緒のジャカルタ行きの航空機に乗せられる予定で飛行場まで運ばれたのですが、急遽中止に。理由はビアク市長の許可が下りない。二国間協定で遺骨帰還が合意されたので全てうまく行くとは限らない。地方自治体の長や部族長たちは蚊帳の外に置かれ、不在で何も知らされていなかったようです。

読売新聞の記者から岩渕会長が取材を受けた際、現地で遺骸移送の許可が下りなかったことも伝えたのですが、記者が厚労省へ確認の電話を入れると、折り返し厚労省から記者に電話が入ったそうです。「検体が現地に留め置かれていることを報道してインドネシア側がそれを知った場合、今後の遺骨帰還ができなくなる可能性があり、岩渕さんは“守秘義務違反”に問われる可能性があります。」と。新聞はこの事件には触れず、追悼記事として報道されました。最近よく「守秘義務違反」とか「公益通報」とか頻繁に耳にしますが、怖いような笑っちゃうような話です。７月に入って漸く、教育文化省が検体をジャカルタまで運んだそうですが、肝心のＤＮＡを鑑定するはずの研究所では書類作成手続きに手間取っているとか…80年前の遺骸の鑑定は技術的に難しいとか…８月末になってもまだ教育文化省の霊安室に留め置かれたままです。ちなみに、戦史館活動の方針はこれまでもこれからも「人命尊重の立場から戦跡調査を続け、戦没者の遺骸捜索、遺骨帰還事業に協力する」「資料の収集、常設展示を通じて平和を推進する」ことに変わりはありません。「英霊」とも「守秘義務違反」とも関係なく活動を継続いたしましょう。

マノクワリ・ヤカチ方面の調査報告　絹川律さん

2024年２月の派遣に高知県から参加した絹川さんも報告会で語りました。「平成20年厚労省に父の戦没地ヤカチについて問い合わせたところ、ヤカチという場所は見当たりませんと言われました。父の部隊（軍属）は口減らしのためにマノクワリからイドレへの「転進命令」で見捨てられ、イドレまで辿り着けずヤカチで

戦死してまた見捨てられました。今漸くヤカチの捜索が始まり、皆さんにヤカチを知ってもらうことができてうれしい。これからです」と。

ジャヤプラとその周辺の調査７月31日～８月10日

戦史館からこの調査に参加したのは遺族の３名 畠山真一郎さんはサルミ戦没者の孫。小山譽子さんは6030部隊戦没者の子供 佐々暢さんは同じ部隊の戦没者の曾孫にあたります。

今まで戦史館が推薦した３名で３世代が揃ったチームは初めて!(次号に参加者の報告を掲載予定)

当初はサルミ４日間を含む８月17日までの日程でインドネシアと合意していましたが、８月15日の武道館の戦没者追悼式行事を優先か？という様々な国内事情から日程が短縮され、サルミ方面は来年に延期されました。

調査候補地はインドネシア側が提案したジャヤプラ市とその周辺の６ヵ所でしたが、実際に行けたのはカユバト、クワセ、プアイの３ヵ所。プアイでは28袋に入った遺骸の鑑定が行われましたが、いずれも日本兵の可能性が低くＤＮＡ鑑定までは至らなかったことが報告されました。カユバトは2005年と2006年に断崖絶壁の場所へ船で往復し、すでに遺骸を収容した場所、法医学者による鑑定で 132柱が帰還しています。プアイは2009年～2013年までの４回の収容で 295柱が帰還しています。この地で最近どんな新発見があったのか戦史館では何もわかりません。またクワセとはどこなのか？クワセ村というのが、戦没者遺族にとって馴染みのあるゲニムと呼ばれる地域の一部だと納得できたのはジョコ・スナリョ氏からの電話で、ゲニムの有力者で旧知のマーティン・ブアイムから「明日、日本のチームがやって来ると聞いたが、なぜジョコと岩渕が来ないのだ！？」という電話からです。ジョコ氏の電話に「岩渕は蚊帳の外に置かれている状態なので何が起きているのかわからない」と返答するほか無かったのですが、事業のやり方も人も、現場の環境も大きく変化している遺骨帰還事業です。１つ１つ良い方向へ進めていきたいと考えています。

総会1～3号議案 戦史館の年間収支報告 赤字40万円の対策は？

戦史館の昨年度の年間収入は 1,635,340円。年間支出は 2,033,278円でした。その差額は約40万円の赤字で借入額累計50万円です。会長理事には役員報酬として１年間に60万円を支払っているのですが、その中から40万円を戻してもらうことで、この年度の危機を切り抜けました。戦史館会員の会費収入は 434,400円。寄付収入は 1,007,000円。事業収入の約19万円の内訳は岩渕会長による講師やコンサルティング収入が中心です。2022年度の事業収入約43万円と比べると、2023年度は半額以下に減少し、遺骨収集推進協会へパプア方面の専門知識のコンサルティング契約が３月に切られたことから、今年度の事業収入は見込めません。会費の値上げは到底できませんが、会員の皆様、支援者の皆様、ご寄付によるご支援をお願いいたします。手続き用の払込取り扱いを同封いたします。

今年は２年に１度の役員改選の年です。理事候補…岩渕宣輝　有馬咲子　小原守夫　畠山真一郎　花岡千賀子　真野康弘　監事候補…小沢秀樹　以上７名。はがきで投票を。